

や行動を変容させるに有効な influential technique を見出すためには個人を active な participant (個人の mental set を active にする) とせず technique を発見する必要がある。

第2回集団生活指導者研修会について(その2)

—Tグループの理論と方法—

○三隅二不二(九州大) 堀江光児(浪速短期大)
R・メリット(立教大)

Tグループは、1947年、メイン州のベッセル(Bethel)で行なわれ、現在に及んでいる National Training Laboratory on Group Development で創られたものである。このT(Training)集会の目的は、対人関係や集団過程に対する参加者の感受性を増大し、また人間関係の基礎的知識や技術を体得する機会を与えることにある。通常2人のトレーナーがいる。グループの大きさは12名ないし13名くらいである。グループはトレーナーのリードにより、流動的(unstructured)グループとしてスタートし、集団過程に生じた諸事件(events)を実験的現象とみなして分析する。一方、参加者の自我関与を深めることによつて対人関係に対する参加者みずからの感受性の訓練をめざすのである。ただし、日本人に適用する場合には、集団の場面構成(structuring)に工夫を必要とする。

第2回集団生活指導者研修会について(その3)

R・メリット(立教大)

米国聖公会教育局は1958年12名の指導者をわが国に派遣し全国キリスト教関係者35名を集めて2週間の研修会を開き、さらに本年夏同様の研修会を開催した。

2週間の会期中10回のTグループを持つたが、最後まで情緒的調和に相当な関心を示していた。すなわち各成員が集団判断により、より良い人格相互関係に入りえない理由を調べるとともに、より深い赤裸々な交渉を求め続けた。

最後まで、自分たちは何かの実験の材料にされているのではないかという先入感に支配されて或る不安を感じていたようだ。各成員は、深い交わりに入りたいという強い欲求を持ち続けたにもかかわらず、最後まで集団の凝集は見られなかつた。

集団の発展の諸問題に対する洞察力は高められたが、もちろんその洞察力は各員各様であつて、実際にはそれほど集団の発達に効果を示しえなかつた。

討論の概要

三隅の司会で討論が進められたが、主として研究発表

に対する質疑とそれに対する応答のかたちで経過した。討論の主要な問題となつたのは3つの発表で、第1には、三隅・メリットらの集団生活指導者研修会のTグループに関する研究について、その対象としてもつと一般の人たちの集団をとりあげれば、さらに発展性のある成果をあげたのではないかと、との指摘がされた。第2には、原岡の研究が問題とされ、その手続きに関して、学級委員のきめ方についての態度項目がどのように設定されたかがとりあげられた。また、mental setについて、これを cognitive structure と同じことに考えてよいのかとの疑問が出され、原岡は、2つのものは同一ではない、ある object に対する対処のしかたが mental set で、それが永続的なものとなると態度と考えられる、と答えた。さらに role playing のさい、自分自身の行動とのちがいが抵抗がおこるが、そのとき、その差を解消しようとする働きがおこる。role playing は、これを促進する、との意見もべられた。第3に、高橋らの研究に関して、観察の規準のとりかたとその妥当性が問われたが、共同研究者の小池から Bales の項目をもとに改訂したものをを用いたが、厳密な検討を行なえば、あるいは観察者間の相関等に疑問の点が生ずるかもしれないので今後研究したい。また、対照群に対する操作も必要と考えているので、これも研究したいとのべられた。(高桑康雄)

視聴覚教育

コミュニケーション行動の発達の研究(Ⅲ)

—小学生における非言語的コミュニケーションの理解様式(第1実験)—

○滝沢武久(東京大) 波多野完治(お茶の水女子大) 辻 正三(東京都立大)

目的：本実験は、文部省科学研究費による総合研究「コミュニケーション現象の総合的研究」の一環として行なわれた研究の一部であつて、小学生が映画を見て、そこからうけとつたものを再現する能力の発達について分析する。

方法：3つの実験群(第1、2群は有声映画、第3群は無声映画)が構成され、被験者は2年生から6年生まで各10名えらばれた。

結果：有声映画では、再現力の発達の差はないが、理解力は一定の年齢の範囲内で発達の進歩がみられる。逆に無声映画では、再現力は発達の進歩があるが、理解力には差がない。無声映画での理解と表現のずれは、発達の減少の傾向をたどるものである。